

【月刊】キリスト教書評誌

# 本のひろば

December 2020 12

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2020年12月1日発行(毎月一回発行)第756号

● 出会う・本・人

贖罪としての『キャッチャー・イン・ザ・ライ』 唐澤健太

● 書評対談

『日本キリスト教歴史人名事典』

鈴木範久／山口陽一／戒能信生／小檜山ルイ／釘宮明美

● 特集カトリック信仰を知るには

この三冊！ 原 敬子

● 本・批評と紹介

三浦 望著

N T J 新約聖書注解 第1、第2、第3ヨハネ書簡 佐藤 研

及川 信著 ルカ福音書を読もう上 小島仰太

古賀 博編 信仰生活ガイド 使徒信条 大久保正禎

加藤常昭著

加藤常昭説教全集34 エフエソの信徒への手紙 本城仰太

越前喜六著 必ず道は開かれる 木村恵子

山口周三著 小西芳之助の生涯 北原和夫

大頭眞一著 天からのはしご 創世記・下 中村佐知

キム・ナムグク著／チェ・キユベ 訳

「わたし」があなたを使いたい ヨナ書講解 権ヨセフ

晴佐久昌英、片柳弘史著 希望する力 香山リカ

越川弘英編 クリスマスへの旅路 古賀 博

既刊案内

書店案内

信徒必携

改訂更新版



変わらない信仰の基本姿勢を新しく

# 信徒必携 改訂更新版

日本基督教団東京教区 編

主に招かれ主に従って生きることを志す信仰者は、  
教会・家庭・社会においてどのように歩むべきか。  
現代日本にあってキリスト者が心に刻むべき姿勢を、  
生活のあらゆる場面にわたって丁寧に解き明かす。

◆A6判 並製・138頁・550円

2020年11月25日刊行予定

## 注解書購入 応援キャンペーン

期間  
2020 12/1 TUE  
2021 3/31 WED

キャンペーン対象注解書全70点から、

合計**20,000円**(税別)以上お買い上げで、

ご購入総額の**20%相当の対象注解書**をお選びいただいて進呈!

キリスト教専門書店限定

対象  
注解  
書

- ・VTJ 旧約聖書注解 (既刊4巻)
- ・NTJ 新約聖書注解 (既刊3巻)
- ・現代聖書注解\* (全44巻)
- ・ニューセンチュリー聖書注解 (既刊11巻)
- ・新共同訳 旧約聖書・続編注解 (全3巻)  
\* I巻は函汚れ品につき10%割引販売 (在庫限り)
- ・新共同訳 新約聖書注解 (全2巻)  
\* II巻は函汚れ品につき10%割引販売 (在庫限り)
- ・新共同訳 旧約聖書略解
- ・新共同訳 新約聖書略解
- ・註解 ローマの信徒への手紙 (C.E.B.クランフィールド 著、山内 真訳)



\* 現代聖書注解『マタイによる福音書』『ペトロの手紙1、2 ヤコブの手紙 ユダの手紙』を  
オンデマンド化! (並製・函なし)



## 贖罪としての『キャッチャー・イン・ザ・ライ』

唐澤健太

苦い思い出がある。中学生の時だ。夏休みの宿題の一つに読書感想文があった。読書家の父とは違って私が手にするのは野球のバットとボールだけであった。夏休みも部活に明け暮れ、もう新学期が始まるうとしていたが、宿題は終わっていないかった。

通っていたある教室の通信を読んでいると中学生の読書感想文が掲載されていた。『ライ麦畑でつかまえて』を読んで。どこの誰がその感想を書いたのか、そもそも本の題名さえ知らなかったが、一瞬にして私の読書感想文の宿題は終わった。

「あなたサリンジャーなんて読んだの?」。母から突然聞かれた。「国語の浜先生が、あの野球少年の唐澤くんがサリンジャーを読んでくれてとても感動したって。彼女が一番好きな作家なんですって」と母は言う。母にどう答えたのか、その後、浜先生と宿題を巡ってどんなやり取りがあったのか覚えていない。ただ中学校を卒業する時に、「サインをちょうだい。あなたがプロ野球選手になったら、この子はサリンジャーを読む野球少

年だったんですよって自慢したいから」と先生に言われサインをしたのは覚えている。

プロ野球の門はくぐれず、私はなぜか神学校の門をくぐることになった。神学校在学中、村上春樹の新訳『キャッチャー・イン・ザ・ライ』が出版されたニュースを見た。何年も思い出したこともなかった浜先生の顔が急に脳裏に浮かび、書店ですぐに手に入れ、一日で読み終えた。主人公のホルデンがなりたかったのは、ライ麦畑で遊んでいる子どもたちが、崖から落ちそうになったときに捕まえてあげる「ライ麦畑のキャッチャー」であった。私のポジションも、捕手だった。

イエス様は「人間をとる漁師にしよう」(マタイ四・一九)とベトロたち漁師を招かれた。牧師はキャッチャーだ。浜先生、あの野球小僧はいまも「キャッチャー」をやっていますよ。

(かわさわ・けんた「カンパード長老教会 国立のぞみ教会牧師」)



## 書評対談

鈴木範久 [監修] 日本キリスト教歴史大事典編集委員会 [編]

# 『日本キリスト教歴史人名事典』 (教文館)

鈴木範久 (すずき・のりひさ: 立教大学名誉教授、本事典編集委員長)

山口陽一 (やまぐち・よういち: 東京基督教大学学長・教授、本事典編集委員)

戒能信生 (かいのう・のぶお: 日本基督教団千代田教会牧師、本事典項目選定協力者)

小檜山ルイ (こひやま・るい: 東京女子大学教授)

釘宮明美 (くぎみや・あけみ: 白百合女子大学教授)

司会 高橋真人 (教文館出版部)



(Zoomでの座談会(2020年10月12日開催)より収録)

司会 本日はご参集いただき誠にありがとうございます。

このたび刊行の『日本キリスト教歴史人名事典』(以下『人名事典』)は、伝来から今日に至るまでの約五一五〇名に及ぶキリスト教関連人物を収載した事典です。一九八八年刊行の『日本キリスト教歴史大事典』(以下『大事典』)が基となっており、一〇年がかりの改訂作業の末、人物に特化した本事典が生まれました。

まず、編集委員長を務められた鈴木先生から、企画のあらましと、仕事を終えられてのご感想を伺いたく存じます。

鈴木 前の『大事典』で編集実務委員を務めたのですが、そのときの委員は寂しいことにほとんどがこの世を去られています。ですので当時、比較的若かった私が今回、このような役目に当たってしまいました。当初は『大事典』全体の改訂を意図したのですが、非常に大変な作業であり、また世間的にも人名への要望が高かったものですから、『人名事典』と

しての刊行へと途中で切り替えたのです。しかし新規項目として約六七〇名を追加したほか、膨大な量の改訂も加えられ、全く新しい事典になったかと思えます。

今回加えた方々には、つい昨日まで言葉を交わしていた人たちがたくさんいます。海老沢有道先生はもちろんですが、作家の井上ひさしさんもそうです。以前、内村鑑三を芝居にしませんかと言ったら、ぜひやりたいとおっしゃった。そのように一人一人顔が浮かぶ方々が相当入っており、感慨深い仕事になりました。

### ◆事典を手にしての所感

戒能 私は『人名事典』の関係者に名を連ねていますが、項目の提案に協力しただけです。ただ、日本基督教団の宣教研究所の責任者を一〇年ほど担っていた関係で、本事典の基になった『大事典』は大いに活用いたしました。教団の事務局にはマスコミや一般の方々から様々な問い合わせが寄せられるのですが、それが

全部宣教研究所に回ってくるのです。これに応答する際に、『大事典』で調査対象の人名を引いて調べ、さらに記されている参考文献や関連事項からも調べました。項目に挙がっていない人物でも、索引にあれば関連人物の項目を読むことで調査の端緒を得ることが少なからずありました。特に一般信徒のこと、例えばクリスチャンの実業家や職業軍人などについて調べる方法はほとんどないのです。今回の『人名事典』にも同様に索引がありますので、大変重宝するでしょう。今回めぐってみて、思わぬ人物が実はクリスチャンだったことを発見して驚きました。例えば作曲家の浜口庫之助、実業家の小林中、『星の王子さま』の翻訳で有名な内藤濯、他にも写真家の善養寺康之さんが無教会と関係があったことも初めて知りました。この国のキリスト教は圧倒的なマイノリティですが、思わぬ広がりを持つことに気づかされます。山口 自身は福音派というグループの

人たちが項目に加える目的で、編集委員に呼んでいただきました。戦後の伝道道中心にいた長谷川真太郎、本田弘慈、舟喜順一、舟喜信、井出定治、岳藤豪希といった人々を中村敏先生にお書きいただいたほか、私も日本クリスチャン・カレッジのD・E・ホーク、いのちのことは社のK・マクビーティ、日本基督教長老教会の小畑進、また代表的な宣教師のR・E・カックス、D・C・マカルパイ、D・A・マーチンなどの項目を執筆しました。いわゆる福音派というグループにすれば、非常に親しい人たちの名前が加わった。それは三〇年以上を経て、一つの変化だろうと思います。

『週刊読書人』での鈴木先生と佐藤優氏の対談を興味深く読ませていただきました。佐藤氏が『大事典』を二ヶ月で全部みっちり読んだという話にびっくりいたしました。私も通読はすぐには無理ですが、全項目の確認はいたしました。全部で五一五〇人、本当に大したものですよ。



〔左上から時計回りに〕 鈴木範久氏、司会、山口陽一氏、小檜山ルイ氏、戒能信生氏、釘宮明美氏

**鈴木** ある人から寄せられた感想なのですが、この事典にはキリスト者に限らず、例えば井上哲次郎や幸徳秋水など、キリスト教に反対した人まで入っている。こういうことは西洋の事典にはないのではないかと。なるほど、マイナス面でのキリスト教の影響も含むという寛大さは、一つの特徴であるような気がしました。また、この事典を調べましたら、自由民権運動にキリスト教が相当大きな影響を与えているのが確認されました。これは自由民権の専門家でも見逃しがちな点です。このように、キリスト教と他の分野との関係が再認識されると思います。この事典を読むと思いがけない人が出てきます。哲学者の**出陣**、政治家の**尾崎行雄**、大逆事件の**菅野スガ**、慶応義塾長の**小泉信三**、プロレタリア作家の**小林多喜二**、『**甘えの構造**』の**土居健郎**さんなど。「キリスト教と関係のあった有名な人の事典」との印象も受けるほどです。なぜこの人はキリスト教の中では忘れら

れた存在になったのか、忘れられたけれどキリスト教がどういう形で生きていたのかなど、研究者として別の関心が見つかるのではないかとも思いました。もう一つ付け加えますと、宣教師ではない外国人たち、例えば**ゲーテ**や**リケ**などの著名人まで入っていて、日本のキリスト教への影響という面で捉えられているのも、かなりユニークな点です。**戒能** 自由民権運動とも関連しますが、明治大正の社会主義者のほとんどはクリスチャンでした。のちにキリスト教から出て行った人も多いのですが、この事典ではそうした人たちも軒並みカバーされており、意味があると思います。**山口** 凡例の「編集方針」にある「信徒・非信徒にかかわらず、日本の政治、経済、思想、文化などの領域でキリスト教の影響のあった人物も採録」という点が、この事典の一大特徴だと思います。「教会著名人の事典」ではなく、社会へ向けて広がっていく事典になっています。

へブル書一・二の「多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いている」とは、こういうことだと実感しました。**小檜山** 私は『人名事典』には関わっていませんが、編集委員にキリスト教史学会のメンバーが多数加わっていますので、そういう意味でよく知った人たちのご努力の成果と受け止めています。

前の『大事典』が出版された一九八八年は、博士論文に本格的に着手した年で、そこでまず買ったのが『大事典』でした。以来、常に机の脇に置いて、研究の友のように使って参りました。何か取っかかりを得るために項目を引き、載っているソースにあたるなど、非常に多用した事典です。私にとって『大事典』が重要な導き手であったように、この『人名事典』も若い研究者にとって手放せないレファレンスになるでしょう。

私は主に明治期を研究していますが、『大事典』の項目選定の時点でよくここまで目を配られたな、と驚かされたこと

がしばしばありました。例えば赤城信一という医師。誰も知らないだろうと思いつつ、『大事典』を引くと、載っている。この『人名事典』も新たな研究の地平を開いていくだろうと思います。

『大事典』の発売から三〇年経ち、この間に亡くなられた方が『人名事典』に加わったことで、明治ではなく昭和の研究を進める上で必要な事典になりました。隅谷三喜男先生、土肥昭夫先生、高谷道男先生、海老沢有道先生、秀村欣二先生など、九〇年代から二〇〇〇年代に鬼籍に入られた先生方が何人も収録されています。こうした研究者に関する研究も進んでいけばと思います。

**釘宮** 私はこれからこの事典を使わせていただく立場ですので、編集のご苦勞や経緯などをありがたく伺っていました。

『人名事典』は、まず読んで面白い。パラパラめくるだけで楽しく、思いがけない発見があります。例えばこの事典はキリシタン史に関連する人物が充実して

おり、その中でも女性や名も無き殉教者に光が当てられている印象を受けました。同時に、地方の郷土史との関係も、この事典で浮き彫りにされてきます。釘宮という姓はいつも珍しがられるのですが、大分県に多い姓です。無教会の伝道者の釘宮徳太郎やメソジストの牧師の釘宮辰生という著名な方もいます。大分はキリシタン大名の大友宗麟が治めた地ですが、大分のキリシタン史研究と顕彰に尽力した大分市長の上田保が項目にあって、初めて知ることが多かったです。

日本における地方のキリシタン史、また世界のキリスト教の中の日本のキリスト教という、グローバルでありながらグローバルであるということはこの事典で感じました。

#### ◆専門分野からの評価

**司会** 次はご専門の研究分野の観点から、『人名事典』の内容についてより深くお話しただければと思います。

小檜山 音楽の分野では、明治から昭和にかけて一貫して、作曲家・作詞家の中に多くのクリスチャンがいました。讃美歌のメロディが唱歌にアダプトされた事例は多く発掘されていますし、詞が元の讃美歌からどう変えられたかという歌詞分析の研究も出てきています。一九〇〇年頃東京音楽学校にいた一〇〇人弱の生徒のうち、四分の一がクリスチャンでした。その人たちが作った「聖楽会」という組織があったらしい。東京音楽学校は共学で、クリスチャンの女性も数多く在籍していました。そうした事実がもっと知られてよいと思います。「人名事典」にも、「海行かば」を作曲した信時潔のぶとききよのほか、滝廉太郎など、重要人物はかなり入っています。明治以降の音楽とキリスト教の関係は深いものでした。NHKの連続テレビ小説『エール』にも反映されていますね。

女性史の観点から申し上げますと、自身は女性に関わる事典類に関与する機会

があるので、この事典には女性がまだ少ないと感じました。「あ行」の西洋人を除く項目だと、女性は全体の約5%です。外国人の「A」の項目では約一五%が女性です。実際に在日プロテスタント宣教師の約三分の二は女性なので、立項数は少ないと言えます。ただ女性宣教師の約半数は宣教師の妻だったので、見えにくい存在ではありません。仕事の多くが妻によってなされていても、夫に吸収されてしまう。ただ独身の女性宣教師で、無名でも地方で地味な活動をした人もいます。まだまだ女性の項目を増やす余地はあるでしょう。でも、プロテスタントの女性宣教師に限れば、抜かしてはいけない人はきちんと取り上げています。この事典に頼れば主要な宣教師について、概略はつかめると思います。

釘宮 文学の分野ですが、日本の近代文学と言えればキリスト教との関係抜きには考えられないので、この事典にも著名な文学者はほぼ網羅されています。ただプ

ロテスタント的近代の伝統において、信仰と文学は滑らかに接続するというより、二律背反的な相克のほうが強かった。北村透谷、島崎藤村、正宗白鳥、有島武郎、志賀直哉など、キリスト教との葛藤は日本文学史に欠かせないテーマです。私自身もこの問題意識を引きずってしまっていて、キルケゴールの「詩人的存在は罪である」という言葉を反芻しながら、文学と思想とキリスト教を往還しています。

文学への光の当て方で興味深いのは、児童文学の分野です。若松賤子せんとはもちろん、先ほど話題に上った内藤濯、『コタンの口笛』を書いた石森延男、『善太と三平』の物語を書いた坪田譲治、童謡〈サツちゃん〉のほか幅広く活躍した阪田寛夫など、非常に目配りが利いています。児童文学の根底には文学そのものにも増してキリスト教的な根源的信頼感があるように思われます。

キリスト者ではないがその周辺にいた文学者、カール・ラーナーの言う「匿名

のキリスト者」のような人物も取り上げられています。アイルランド文学の松村みね子や、ロマン・ロランの翻訳者でキリスト教にシンパシーを感じていたであろう片山敏彦など。与謝野晶子は晩年カトリックに入信したので掲載は当然ですが、よく対照される山川登美子とみこもあつたのは新鮮な驚きでした。

新しい研究領域である「宣教師の日本語文学」の分野では、H・ホイヴェルス神父やS・A・カンドウ神父なども載っています。海外から来て日本に骨を埋めた宣教師たちにも、もっと光が当たればと思います。それから日本にキリスト教画像学を紹介した三浦アンナも出ていますね。A・ハルナツクの弟子だった人です。海外出身で日本のキリスト教文化に貢献した人たちのことも知ることができるとは、本当によいことだと思います。

山口 釘宮先生がおっしゃる通り、この事典は文学に強いと思うのですが、どのような理由によるのでしょうか。

鈴木 結果的にそうなったのでしようね。私に関しては、明白な信徒だけでなく、入信を迷ったり、入信しないが関わったりした人なるべく取り上げました。だから竹久夢二なども好んで立項しました。私も含め、編集委員の方々の関心がそういうところにあつたということでしょう。

『大事典』の最初の編集会議で印象に残ったことですが、編集委員の加藤常昭先生が「ぜひ普通の事典のようではない事典にしてほしい」とおっしゃった。神学的な記述だけでなく、その人物の人となりや表れる逸話を入れることや、事実を述べる場合でも、それが日本社会においてどんな意味を持つかを意識することや、強調されました。『人名事典』もこの視点が反映されているとよいのですが。

戒能 観点が変わりますが、網野善彦さんが様々な対談でよく山中共古きよこという民俗学者に触れています。この人は甲府メソジスト教会の牧師でもあるのですが、『人名事典』に山中笑あむとしてちゃんと載

っています。従来の観点ではなかなか入ってこない人たちがかなり拾われていることを強調しておきたいですね。

山口 今回、私の曾祖父の山口六平ろくへいも項目に加わりました。すでに追加項目に入っていて、岡部一興先生が書く予定でした。しかし「曾孫がいるならば」というので執筆を回してくださいました。書くことができ大変嬉しかったです。

#### ◇出版の意義と今後の展望

戒能 最近はWikipediaで調べると、生没年や生涯などかなりの部分がフォローできるわけですが、そういう中で紙の媒体でこんな大きな事典を出して、果たして売れるのが心配です。

司会 Wikipediaに項目がある人物、特に教会関係者の記述の多くは『大事典』なり他の書籍なりをベースにしているのが現実です。誰かが編集責任を担っているわけではありません。『人名事典』は執筆者名を明記した責任ある記述という

点で、抜群の信頼性があります。またネットに全く記載がないマイナーな人物も、この事典には多数収録されています。知られていない人物でも、紙媒体の事典に記録されることで一定の評価が付与され、安心できるソースとして引用可能になるのは、重要ではないかと思えます。

**鈴木** やはり信頼できるのは紙の事典ですね。日本語の Wikipedia が信頼に至るまでにはまだ時間がかかるでしょう。

**司会** インターネットで国内外の諸資料へのアクセスが容易になりましたが、大事なのはネットであれ書籍であれ、信頼できる資料にたどり着くことですね。

**鈴木** 刊行後に「ああ、この人を抜かしちゃった」と気づくことがあり、大いに反省しています。すぐに補遺作業に取りかかって、教文館には五年後ぐらいにぜひ増補版を出していただきたい。

**戒能** 増補版ならば、電子版の形で安価に提供することも可能だと思えますが。

**司会** 技術的な問題もありますが、改訂

作業を恒常的に行うには、採算性や人的リソース不足といった問題もあります。紙の事典がある程度売れた段階ならば、図書館向けのライセンス販売としての電子版刊行は実現しやすいかもしれません。

例えば『新カトリック大事典』（研究社）はすでに電子化され、オンライン事典として今も改訂作業が継続しています。

**釘宮** 利用経験がありますが、同時使用数の制限などがあり、電子版と言っても随意に使えないこともあるようです。

**小檜山** 私も関わった Women and Social Movements という米国の企画では、論文と資料の公開にサブスクリプション方式を採用しています。大学の図書館に入れてもらっていますが、毎年数十万円もかかります。出版社は定期的な使用料収入がないと維持できないでしょう。毎年新企画を加えています。

**司会** 次の改訂時期は確言できませんが、編集者としては本事典の刊行を機にさらに日本キリスト教史の研究が盛んになり、

増補に役立つ資料をご提供いただきたいと願うばかりです。近年亡くなられた方を調べる場合、時が経つにつれ関係者の居場所がつかめなくなり、生き証人にも会える機会が減ってきますので、調査は早いうちにしてほしい、そしてその成果と考察を後進の研究者のために残してほしいと思えます。

#### ◆ 推薦の言葉

**鈴木** この間の佐藤優さんとの対談に刺激を受け、私も通読を始めました。一週間かかりました。通読したお陰で、今までは違う発見もありました。この事典の中にはいろいろな種が詰まっています。常に書齋に置いてご覧いただければ、研究の上でも、単なる読み物としても損はない。通読して改めて実感しました。

**戒能** 最近、研究論文に『大事典』が典拠として挙げられるのをよく見かけます。他の事典と違い、『大事典』は不思議なことに論文の注に出てくる。それだけ評

価されているのでしょうか。しかし研究者が読むだけではなくて、一般の読者が読んでも面白い。自分の関心のままに読んで、気になった人が出てきたらその関連で別の項目を読んでいくと、文章が身近に感じられます。論述の仕方が研究者向けでなく、一般の人たちが関心を持てるようになっていく人名事典という点でもお勧めしたいと思えます。

**山口** 大学では「日本キリスト教史」のクラスの第一の参考文献は今まで『大事典』でしたが、今後は『人名事典』を並べて紹介したいと思えます。大学や神学校で学んでいる方々には、ぜひそのように並べて利用してほしいと思えます。

『大事典』でも項目サーフィンと言いますが、関連項目を続けて読むことを何度もしましたが、『人名事典』もそれが期待できます。通読も楽しみます。

**小檜山** 私はこの事典に、西洋とのコンタクトゾーンが詰まっていると考えています。日本人がどのように西洋と対峙し

たのか、西洋人が日本にどんな西洋を伝えようとしたのか、そのエージェントにはどんな人がいたのか。その諸相の窓がここに入っていて、その窓から奥深い広がりが見えます。入り口をぜひこの事典で確かめて、関心を持った人はより深い部分を調べてほしい。

**釘宮** 私の勤務先の大学では、入学して初めてキリスト教に触れる学生のほうが多いです。キリスト教という固定観念がありませんが、実は非常に身近だということが、日本のキリスト教を生きた人たちを通して伝わってきます。その証しが、この事典のコンパクトな記述の中に凝縮されています。ですから、学生にぜひ読んでほしい。コツコツと何かを積み上げの中で、歴史というものも積み重ねられていくし、そこから後世に受け継がれていく芽が芽吹いていくのではないかと思えます。

**鈴木** この事典を通して強く感じたのは、キリスト教史関係で論文やレポートを書

こうとする場合、その種がごろごろしているのではないかと。テーマに困っている人がいたら、この事典をパラパラ見るだけで見つかるでしょう。研究者や学生にとっては必読の事典だと思います。皆さん、今日は本当に大変な時期に、こういう形ですがお集まりいただきました。本当にありがとうございます。先生方からいただいた貴重なご意見を今後の出版活動に生かしていきたいと思えます。厚く御礼を申し上げます。

#### 『日本キリスト教歴史人名事典』

B5判・函入・984頁、教文館

通常定価（本体 45,000 円＋税）

\* 特別定価（本体 42,000 円＋税）

特価期限 2020年11月30日



本事典の内容見本は  
こちらのQRコードから  
ご覧になれます。

## カトリック信仰を知るには

# ▼この三冊！

## 原 敬子

(はら・けいこ…上智大学神学部准教授)

カトリック信仰という言葉はよく使われるが、うまく言い得たことがない。自分がキリスト者で、カトリック教会の一員であることは表明できるが、では、あなたの信仰をここに出してみたと言われると、尻込みするしかない、そもそも信仰があるとかないとかという質量の問題なのかと反発してしまう。

恩師である岩島忠彦師がかつて授業で、神経験を「海水浴」のたとえで説明くださったことがある。夏の浜辺を想像してごらん——。家族連れや恋人、

はなくて、わたしの服が織り上げられていく時の機織り機のような、あるいは、わたしという楽器を鳴らしてくれる奏者とでも言おうか。そのような三冊である。内なる自分のカトリック信仰を知らしめてくれる珠玉の書である。

## 永井 隆著 『長崎の鐘』

『長崎の鐘』はあまりにも有名で、戦後の長きにわたり愛されてきた。映画にもなった。わたしはこれをカトリック信者の証言の書ととらえてみたい。

自分の身に降りかかる出来事、それがどれほど悲惨な出来事であったとしても負けない。いや、勝ち負けではない。無残に死んでいく人間にも最後に備えられた尊厳があり、その美しさをどのように喚起することができるか、その術を永井博士は教えてくれている。

博士は、長崎の原爆投下について、それは神の摂理であり、惨禍で亡くなった死者は神に捧げられた燔祭であ

仲間と一緒の人々、様々な人が海辺で遊んでいる。ある人は浅瀬にからだ半分浸かり、寄せては返す波と戯れる。ある人は泳ぎが得意なのだろう。沖合の方で悠々と泳いでいる。また、ある人は浜辺でビーチボールに夢中である。さて、人々は皆、浜辺で遊ぶという同じ経験をしている。しかし、皆、違った方法で遊んでいる。神経験もこのようなものだ。神経験はひとりひとりが自分で経験するしかない。当然、ひとりひとり違う経験だろう。しかし、そ

り、命からがら生き延びた被爆者らは神からの試練を拝受したと理解した。この解釈は、キリスト教迫害で殉教していったアンテオキアのイグナティウスを想起させる。この殉教者は、悲劇的狀況の中でも共に生きる共同体のことを公同教会(エクレスシア・カトリケー)だと証言する。迫害の真っ只中で、わたしたちは迫害する者たちをも含めた周辺世界のために存在していると徹底肯定するのだ。

『長崎の鐘』にも天に突き抜けた明るさがある。博士のリアルを射抜く眼差しは「ユーモア」という人間だけが賜った能力を通してわたしたちの内に生きる神の姿をとらえる。

カトリック中央協議会編集『すべてのいのちを守るため——教皇フランシスコ訪日講話集』

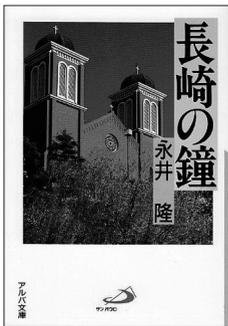
「日本のカトリック教会」という言い方が成立するためには、地理的な理

のよう、異なる経験であっても総称して神経験と呼ぶ。信仰もこの感覚に似ているように思う。聖堂の中で、同じミサに与って、同じパンを食べ、同じ杯を飲む。しかし果たして、わたしの隣に座っているこの人は同じ神経験をしているのだろうか。「聖、公、一、使徒継承、わたしは信じます」と宣言するが、経験において、これがどれほど多様であるか痛いほどわかっている。

夏、太陽の光が燦々と降りしきる浜辺は自由に海遊びすることが許される。わたしの信じ方はわたし自身の歴史に神さまが織り上げてくださった布のようなもので、それを身に帯びて海遊びをする、そう、つまり、わたしはわたしの服で信仰を生きているのだ。したがって、ここでご紹介したい「この三冊!」は、「カトリック信仰とは何か?」を問う場合に回答しがちな信仰内容について、何も教えてくれない。そうで

解だけでなく、時間軸において「伝統」をいかに認識できるかが問題となると思う。教勢を見れば毎年のデータとして把握できる。多分に漏れず少子高齢化の影響を受け明るい話題は少ない。では、伝統の面からはどうだろうか?日本のカトリック教会の伝統をどう内省し、表現できるだろうか。

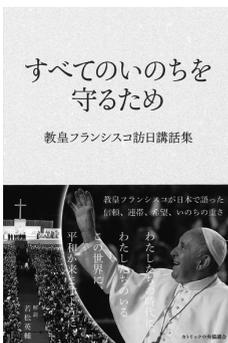
イヴ・コンガールによれば、伝統は、Traditionと traditions という二つに区別されるという。神の民である教会が歴史を歩む中で、伝統とは積み重ねられて来たものそれ自体と、その説明だということである。大文字のTの「伝統」は聖霊によって継統され、与えられ受け取られてきたキリストについて、の啓示の全体、そして、小文字のt複数形「諸伝承」は、説明され伝達された内容や定義を巡って、宗教改革の時代にも問題となったいわば事象である。コンガールの伝統に関する神学的



【長崎の鐘 [アルバ文庫]】

永井 隆：著  
サンパウロ  
1995年刊  
文庫判160頁  
580円(税別)

は裏腹に、徹底的に妥協をゆるさない人間の生への探求心に圧倒される。この感覚は、長い中世が終焉を迎えグローバルな近代世界に人類が一步、足を踏み入れようとした時の、あの知解の信仰を求めよと人々を覚醒した数々の神秘学者からのメッセージを浴び



【すべてのいのちを守るため】

教皇フランシスコ訪日講話集

教皇フランシスコ：著  
カトリック中央協議会：編集  
カトリック中央協議会  
2020年刊  
四六判128頁  
1100円(税別)

ているような感覚だった。若松氏は相手が誰であろうと、人間の内なる「信」を呼び覚まそうと語っておられるのではないか。カトリック信仰がどこまでも普遍性という看板をはずさない、その気概を同時代に生かしていただいているこのわたしも、こ



【14歳の教室】

どう読み どう生きるか

若松英輔：著  
NHK出版  
2020年刊  
四六判208頁  
1300円(税別)

の手にキャッチした。以上が日本という地方教会に生きるわたしが「カトリック信仰の書ここにあり」とご紹介する三冊……。信仰を出してお見せすることはできないが、どのように養われているかはご紹介できるものなのだ。

解釈を土台にすれば、日本のカトリック教会における伝統の深化は、大文字の「伝統」、つまり、弱さも貧しさも、足りなさも高齢化も起こっているとしても、今、生きているわたしたちに与えられ、わたしたちが受けたイエス・キリストが誰なのかを明確にすることにかかっていると思う。

この内省作業を助けてくれる使者が、昨年、日本にやって来た。フランシスコ教皇である。長崎、広島、東京の訪問という大規模な、いわば、メガ・イベントだった。関係者たちは夜も寝ないで準備したのではないだろうか。連日、テレビ・ニュースでは速報として報じられ、政府レベルとしても国賓級の歓迎体制だった。

本書は、あの訪問で語られた声の記録である。この書を読み始めるなら、あの時のフランシスコの声が耳の奥に響き渡る。あの時の彼の微笑み、温か

い眼差し、そして、厳しい表情までも思い出される。彼に向き合って語った日本人の表情も……。日本のカトリック教会にとってこの書は現代の福音書と言えるだろう。全教的には包括的視点から、日本の教会にとっては完全なる外部視点から、多様な視点が交差した特別なメッセージである。この書に照らされて、わたしたち日本のカトリック教会は自らの信仰の内省を行うことができる。

若松英輔著『14歳の教室——どう読み どう生きるか』

最後にご紹介するのは若松英輔氏の新刊、若松氏が筑波大学附属中学校三年生の生徒に向けなされた七回分の講義録から書き起こされた書である。「十四歳」という年齢を聞けばすぐに思い出されるのが、池田晶子氏の『14歳からの哲学——考えるための教科書』だ。たしかに本文で若松氏は池田晶子

氏への想いを熱く語り、この書が彼女へのオマージュであることもわかる。

この書は、現代において、わたしたちひとりひとりが、自身の信仰を見出して生きるために大変有用な内部視点を与えてくれる。わたしは読み進めていくうちに、ロヨラの聖イグナチオが主張した「五官の活用」を思い出していた。目、耳、鼻、舌、皮膚……。人間にはこれらの五官を意識して活用することで外界との接触をより深い次元で生きる可能性が与えられている。若松氏は、おもう、考える、分かる、読むと書く、対話するという人間特有の活動をどのように行うべきか、中学生の現実に届く言葉で語りかけてくれる。一般的にテレビは中学生が理解できるくらいの語彙を用いているという。本書はとても読みやすく、わたしのすぐ側に近づいてくれる。しかし、同時に、シンプルな語りからくる優しさと

# 人間の深層洞察を携えつつ 文献学的個別作業を貫く注解

〈評者〉 佐藤 研



NTJ新約聖書注解  
第1、第2、第3ヨハネ書簡  
三浦 望著

Novum Testamentum Japonicum と銘打つ、日本の堅固的研究者らによる書き下し叢書(二〇一七年刊行開始)の一冊。著者は聖心会の修道者にして日本の代表的な女性新約聖書学者。本書は「ヨハネ文書」の中から、福音書を除いた書簡三本を扱う。広汎かつ緻密な釈義と複眼的な平衡感覚を駆使し、人間の心の真実をも凝視する秀逸な作品。ヨハネ文書に関心を持つ者には必読の書となる。

緒論的に言えば、ヨハネ福音書及び三書簡は「ヨハネ共同体」の作品であり、その際、書簡の著者(たち)は福音書の著者とは別人物(三七、以下数字のみは頁数)。但し、第一と第二の書簡の著者は同一人かも知れない(三七八)。他方、第二と第三の書簡の著者が同一かどうかは判断できない(四二二)。書簡の成立場所はおそらく小アジア(四三二)。これらは全て無難な想定であろう。

の教えを携えずにあなたがたのところに来る者がいれば、その人を家に入れてはなりませんし、彼に挨拶をしてもなりません(二ヨハ一〇)。こうした露骨な矛盾を見据えながら、著者は書簡の立場に立って言う。「『彼ら』を敵として断罪し、切り捨ててもしなければ、自分たちの胸をえぐるように去って行った人々を諦めることができないような……。あるいは、このトラウマと混乱状況に動揺する『子どもたち』を勇気づけ、傷を癒すためには、彼らを敢えて『仲間ではない』と断断するしかないというような。少なくともわたしは、この差出人の愛憎に、どこか人としての近しさを感じるので、とてもこの差出人を『偽善者』などと一括して片付けることはできない(一九四)。著者のこの揺らぐような述懐との対話は、各々読者に任せたい。更

三書簡の内、第一と第二は文学ジャンルとしては「パレネーゼの手紙」。即ち「倫理的勧告・奨励」を意図する(六六六)。特に第一書簡は圏内で読まれた「回状」(六五)、第二書簡はその際の「カバー・レター」(添え状、三七八)であった可能性がある。他方、第三書簡はある特定の個人に当てられた「紹介の手紙」(推薦状)(四二四)である。

以下、広範囲な内容から、とある側面だけを紹介する。ヨハネ書簡は、共同体内部で「互いに愛し合うこと」(一ヨハ三・二一、著者訳、以下同)を核心事として勧告する。しかるに、まさにこの共同体内部に深刻な分裂が走った。分離した「彼らは、わたしたちから去って行きましたが、わたしたちから〔の者〕ではなかったのです」(一ヨハ二・一九)。この決裂は彼らが「わたしたち」のキリスト論的教えを受容しなかったことに由来する。したがって、「こ

には、「神は愛」との宣言に関して次の省察がある。「『恐れ』は、人間の最も深い『望み』のすぐ隣にある。《中略》それは、人間として、最も剥き出しで、最も傷つきやすく、無防備なところでもある。逆説的ではあるが、神の愛が最も力強く働く場と、人間の弱さが最も無惨に剥き出しになる場は、同じ場所なのである」(三〇六)。

この注解書は、こうした人間の深層洞察を携えつつ文献学的個別作業を貫く。同時に、読者の理解を助けるべく、様々な同時代情報やヨハネ圏理解へのヒントが「コラム」や「トピック」という形で鏤められている。著者の配慮とその学的傾注の結晶(五百頁!)というべき作品である。

(さとう・みかく)立教大学名誉教授  
(A5判・五〇六頁・本体六六〇〇円+税、日本キリスト教団出版局)

脳性まひの兄・源三がつむぐ「まばたきの詩」を聞き取った妹が語る、奇跡の詩人を支えた家族の物語



## 悲しみよありがとう まばたきの詩人 兄・水野源三の贈り物

林久子文  
水野源三詩  
小林恵写真

まばたきの詩人・水野源三。脳性まひで四肢の自由と言葉を失い、「まばたき」で多数の作品を残した。そのまばたきを書き写し続けた妹・久子さんが記す兄・源三の思い出と作品の数々。

A5判変型・80頁・1320円



「悲しみよ悲しみよ／本当にありがたう」「もしも私が苦しまなかったら／神様の愛を知らなかった」など、悲しみと苦しみの中でつむがれた珠玉の信仰の詩27編を、美しいカラー写真とともに味わえる

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail: eigyoku@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》  
http://bp-uccj.jp

## これが私の生きる道

〈評者〉 小島仰太



ルカ福音書を讀もう 上  
この世を生きるキリスト者  
及川 信著

何十年も教会に通い続けている人から「旧約聖書はユダヤ人の歴史を書いたものだから、私たちには関係ない」という言葉を聞いたことがある。また、「説教で『当時、コリントの教会の人たちは……でした』といった言葉を聞くと、他人事のように聞こえる」と言った人もいた。それは、聖書の御言葉が過去の出来事として語られ、そして聞かれている証拠だ。聖書の御言葉は語り方次第で、あるいは聞き方次第で、単なる物語や昔話、つまり「他人事」になってしまう。

本書には「この世を生きるキリスト者」という副題が付されている。本書は、聖書の御言葉を「他人事」にはしていない。いつの時代であっても神さまは「今を生きる私」に語りかけてくださっていることを、ルカ福音書の御言葉から生き生きと伝えている。

「はじめに」では、新約聖書と福音書について、またルカ福音書の特徴について触れられている。読み始めるに際しての良き準備となろう。福音に聴き、福音を語り、福音に生きる著者自身の喜びを感じ取れる導入だ。

本文は、ルカ福音書一〜二章が四〇の黙想で語られている。その中のキーワードとなる言葉を、新約聖書の原語（ギリシア語）に触れつつ、その言葉の持つ意味を丁寧に読み解いている。難しい言葉はなく、どれも腑に落ちる。キリスト者としてこの世の現実生きるうえで気を配らなければならないことや、聖書の御言葉のとおり生きることの意味を、読み手は深く考えさせられる。

また、著者は最初の章からルカ福音書の最後について言及する。「ルカ福音書は、エルサレム神殿を舞台に始まり、そして終わります。最後は、主イエスの弟子たちが神殿の

境内で『神をほめたたえていた』という言葉です。……神を賛美することが、宣教の目的なのです」（一六頁）。このルカ福音書の最後についての言及は、他の箇所でも繰り返される。著者は、最初から主イエスの十字架と復活、そして昇天、更にはその後の弟子たちによる宣教を見据えながら、主イエスの御生涯をたどっているのだ。

それゆえに、十字架と復活の意味を証しする言葉が何度も繰り返される。それは、キリスト者にとっては周知のことかもしれない。しかし、主イエスの十字架と復活によって成し遂げられた神による罪の赦しと救いが「他人事」になっているならば、キリスト者といえども、主イエスの十字架と復活の喜びに生きているとはいえない。「あなたはどうかですか？」と問われているようだ。

私がこの書評の執筆を依頼されたのは、今年になって間もなくだった。そのときには、コロナ禍の最中に本書を手にするようになるなど思ってもいなかった。今、この時、キリスト者とされている意味を自らに問い、どう生きるべきかを真剣に考える時が与えられている。「教会にとって大切なことは、神の国に向けて歩んでいるという感覚です」（二六九頁）という言葉は、恐れと不安に駆られ続けている心に響いた。主日ごとにささげる礼拝で神さまを賛美し、この世に遣わされていくキリスト者が生きる道は一つであると確信できる一冊である。

（こじま・こうた 日本基督教団蕪崎教会牧師）  
（四六判・二八〇頁・本体二六〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）



## 聖霊と靈性

心の深みで

栗田英昭  
KURITA Hideaki



三位一体の神である  
聖霊の働く場所は  
人間の靈性。  
場所的聖霊論。

A5判・上製  
定価【本体3,800＋税】円  
ISBN978-4-86325-125-0



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<https://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](https://mobile.ichibaku.co.jp)

## 使徒信条は「いのちの道すじ」 その格好のガイドブック

〈評者〉 大久保正禎



### 信仰生活ガイド

使徒信条

古賀 博編

本書は、キリスト教信仰の「入門書」また「再入門書」のシリーズ「信仰生活ガイド」の一冊ということ。信仰の歩みは「入門」に始まりますが、その後も絶えざる「再入門」の連続として歩みゆくよりほかないものだと、自らの歩みを振り返って思われます。「入門」から始まって、最初はおぼつかない足取りで歩き始めます。ある程度進んでゆくと、いつしかだいたい歩き慣れてきたと思うようになる。しかしそのような時こそが実は危機なのかもしれません。自らを省みる視点を失ってしまっているのです。気づけば、右も左も前も後ろも、上下すらも分からない、虚無の無重力の中に彷徨（さまよ）っている自分を見いだします。牧師として働く中でも幾度となくそんな危機を経験してきました。その度ごとに、自分はここで一体何をやっているのか、どこから来てどこに向かっているのか、改めて問い直さなければなりません。

ればなりません。そんな時に、もう一度平衡感覚を取り戻し、進むべき方向を見定めるための道しるべとなつたのは、長大な神学の言葉よりも、簡潔素朴な使徒信条の言葉でした。

本書の「はじめに」で編者が紹介しているように、使徒信条は「キリスト教の基本文法」と言われます。しかし使徒信条は、単なる「基本文法」ではなく、「学べば学ぶほどに……そこに信仰の厚い『地層』が形成されている」（五頁）ことに気づかされるものです。そこには古代教会から始まってこの信仰を告白して生きた数多の信仰者の信仰と生命の連なりが息づいているのです。

筆者はこれまで三度、使徒信条の言葉に沿い、聖書の言葉に聞きながら、主日礼拝の連続説教をしてきました。繰返しその言葉を読み返すうちに、「我は、天地の造り主」

から始まり「永遠（とこしえ）の生命（いのち）を信ず」へと至る使徒信条の言葉の流れの内に、神様によって造られ、キリストと出会い、聖霊によって共に生きる者同士結び合わせられ、苦しみと死を経験し、しかしキリストにあつてよみがえり、永遠の生命へと至る、そんな「いのちの道すじ」が示されていると感じるようになりました。この「いのちの道すじ」との呼応・共鳴によってこそ、わたしたちは使徒信条から生きる力を与えられるのだと思います。

一人の著者による使徒信条の講解書は多くありますが、本書の特徴は複数の執筆者（編者）を入れると「三人」によって著されている点にあると思います。単なる解釈や語釈に留まらず、それぞれが自身の経験や出会った人々の姿に触れながら使徒信条の言葉を解きほぐしていきます。そこに

は失敗があり、挫折があり、過ちがあり、絶望があり、人間の生きる苦闘が語られます。しかしそこにはなお出会いがあり、救いがあり、癒しがあり、救いがあり、人間の生きる希望が語られています。このことによって本書はまさに、「いのちの道すじ」、信仰者の生命の連なりとしての信仰の「地層」という、使徒信条本来の姿を指し示しています。

本書が単なる信仰「入門」「再入門」テキストとしてだけでなく、使徒信条をもう一度ほんとうの「ガイド」、いのちの道しるべとして受けとめなおすためにも、読まれることを願うものです。

（おおくは・まさよし）日本基督教団王子教会牧師  
（四六判・二二八頁・本体一三〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

## キリスト教の歴史を概観する 最良の入門書



## キリスト教史の学び

日本基督教団教師  
同志社大学キリスト教文化センター教員  
越川弘英 著



キリスト教の母体となったユダヤ教の歴史から、キリスト教の誕生と発展、古代ローマ帝国時代から中世ヨーロッパにおける「キリスト教世界」の成立。そして宗教改革を経て近現代の、バルト、ボンヘッフアー、マザーテレサ、教皇フランシスコの時代まで。それぞれの時代の社会におけるキリスト教会の存在と活動、その中で重要な働きを担った象徴的な人物の働きや思想を取りあげながら、キリスト教の通史を分かりやすく解説する。



【上巻】A5判・312頁  
本体 2,000円＋税  
【下巻】A5判・346頁  
本体 2,200円＋税

キリスト新聞社 since 1946  
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
AVACOビル6階 TEL 03-5579-2432

## 日本伝道を切り拓く 説教がここに！

〈評者〉**本城仰太**



加藤常昭説教全集 34  
エフェソの信徒への手紙  
加藤常昭著

個人的なことになるが、二〇〇九年度は私にとって思い出深い一年であった。神学生の最終学年の年であり、鎌倉雪ノ下教会で本書に収録されている加藤常昭先生による月一度のエフェソの信徒への手紙の説教を聴き続けた一年であった。この年は鎌倉雪ノ下教会にとって特異な一年であった。牧師が辞任し、次の後任牧師が着任するまで待たなければならぬ一年だったからである。牧師を送り出し、新たな牧師を迎える一年間、教会員は様々な思いを抱えながら、独特の雰囲気の中で、エフェソの信徒への手紙の説教を聴いたのである。

それゆえに、本書に収められている説教は、一般的な説教集とは性格を異にするところがある。「厳密な意味での連続講解説教をすることはできませんでした」（二七二頁の「あとがき」より）と記されている通りであり、その意

味からすると、これまでに出版されている『加藤常昭説教全集』のものとも、特徴が違うと言わなければならないかもしれない。

しかし、これまでの説教集と同様、教会の聴き手と状況がよく踏まえられた説教となっている。説教を読めば、教会の息遣いが伝わってくるのである。説教者と教会員の「一種の共同黙想」（二七二頁の「あとがき」より）である。これまでの『加藤常昭説教全集』に収録されている説教を読んでいると、鎌倉雪ノ下教会のその時の様子が手に取るように見えてくる体験をする。それと同様、本書でも二〇〇九年度の鎌倉雪ノ下教会の息遣いを体験することができる。

説教の中には、具体的な固有名詞がたくさん出てくる。いずれも福音に生きている（生きた）者たちであり、鎌倉説教全集』第三四巻として、第IV期の刊行の最初のものとして出版された。その他に、「使徒言行録講話」「コリントの信徒への手紙一講話」「コリントの信徒への手紙二講話」「新約聖書書簡の説教1」「新約聖書書簡の説教2」が続く予定である。「若い時の説教」や「隠退後の説教」に加え、FEB Cで語った聖書講話も収録されている。楽しみに待ちたい。

（ほんじょう・こうた || 日本基督教団中渋谷教会牧師）  
（四六判・二七六頁・本体二七〇〇円＋税・教文館）

雪ノ下教会を形づくっている（形づくった）者たちである。一人ひとりが福音に生き、教会に生きている姿として描き出される。福音に生き、教会に生きるとは、こういうことだ、自分もそのように生きることができると、生きているのだ、その思いが深く心に刻まれる説教である。

日本の伝道は困難を極めている。プロテスタント教会にとって最も重要な説教に課題があるのと言うまでもない。聖書の説明に終始し、その説教原稿をどの教会に持って行っても通用するような説教では、日本の伝道は切り拓けないだろう。今の日本の教会が必要としている説教が、ここに示されているのではないか。聴き手を招き、聴き手と共に教会を造っていく説教である。

このたび、「エフェソの信徒への手紙」が『加藤常昭説



## 日本キリスト教歴史人名事典

鈴木範久 監修 日本キリスト教歴史大事典編集委員会 編 呈・内容見本

最新の研究成果や新事実を反映した約5150人のキリスト教関係者を網羅。日本キリスト教史研究の里程碑ともいべき必須の基礎文献。

好評発売中

●B5判・函入・984頁・本体45,000円  
◆特別定価 本体42,000円（2020年11月30日まで）



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
☎03-3561-5549 FAX 03-5250-5107

## 深い洞察にあふれた 珠玉のごとば

〈評者〉**木村恵子**



**必ず道は開かれる**  
越前喜六著

本書はカトリック・イエズス会司祭であり、上智大学文学部名誉教授である越前喜六神父が書かれたエッセイ集を、プロテスタントの日本キリスト教団出版局が出版するという、まさにエキクメニカルな本といえます。そしてページを開くと、まえがきには日本曹洞宗開祖の道元が説く「愛語」について述べられ、著者の仏教への深い洞察はエッセイの中にも垣間見ることが出来ます。そして同じように聖書を通して語られる神の「愛語」が、この本の通奏低音として脈々と流れているのです。

戦後間もなく、荒廃した日本社会に「暗いと不平を言うよりも、すすんであたりをつけましょう」という標語を掲げた「心のともしび運動」（ラジオ、テレビなどマスコミを利用した伝道）がアメリカ人のカトリック宣教師によって始められました（現在も続けられています）。当時は朝

も七二分で読み終わることになります。そして、この本は初めから順に読む必要もないかもしれません。パラパラとページを開いて、気に入ったところを読むのも楽しいことだと思います。

私が越前神父と出会ったのは、五、六年前にたまたま上智大学の「人間学講座」というチラシを目にしたことからでした。「人生の生き方を考えるこの人間学講座は、社会や家庭で忙しく生きておられる方々も、わずかの時間さえあれば、己を振り返ることが出来る機会を提供しています」という誘い文句に惹かれて講座に参加させていただいたのです。人間がいかなる存在なのか、人は誰でも先天的な才能を持っているが、学ばなければすでに知っている真理でも思い出すことができない、学んで真理を想起してこ

の五時二〇分頃から三分間、ニッポン放送系で女性のアンウンサーが朗読していました（現在はインターネットの時代で、いつでも好きな時に聞くことができます）。視聴者には不特定多数の一般人を対象にしているもので、なるべくキリスト教色を出さないように、人間学的なものか、人生論のような題材を語るようにしているそうです。越前神父もその運動に加わり伝道的一端を担っています。その原稿の一部が本書になりました。ラジオ放送のため、限られた三分内に、身近な出来事を例話にしながら、そのエッセンスを細心の努力を払って綴られています。そして誰にでもわかるやさしい言葉で書かれています。

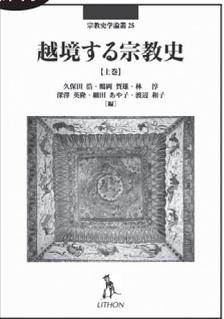
本書は「勇気をもって歩む」という章に「三編、「かわるることの大切さ」の章に「一編のエッセイが掲載されています。単純に計算すれば初めから最後まで通して読んでもそれは賢くなれる、学問の目的は、人間とは何か、自分とは何者か、なんのために生きるのか、いかに生きるべきなのかなど、六、七人の仲間と越前神父の元で学ぶ機会が与えられたことに感謝しています。

本書『必ず道は開かれる』は、主イエスの福音のメッセージに基づいて日本人とその社会の問題を考え、語られ、実践されたならば、その多くが解決されるだろうという希望と信念のもとに書かれています。本の帯にイエズス会士片柳弘史司祭が推薦の言葉として書いておられるように、豊かな人生経験から紡ぎ出された珠玉のエッセイ集であり、この時代を生き抜くためのヒントが必ず見つかります。

（きむら・けいこ）日本基督教団豊南坂教会員  
（四六判・二二二頁・本体一〇〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）



新刊



宗教史学論叢25

## 越境する 宗教史

【上巻】

久保田浩・鶴岡賀雄 編  
林 淳・深澤英隆  
細田あや子・渡辺和子

●A5判上製 本体5,000円＋税

高橋典史越境する移民の  
もたらす宗教変動—日本にお  
けるカトリック教会に注目して  
／津曲真一—イッポリト・デシ  
デリ神父の輪廻批判／三輪地  
塩 明治期に創出された「カ  
トリック」と「プロテスタント」の境  
界／池澤優サナトロジーから  
生死学への「越境」／白波  
瀬達也キリスト教と市民活動  
が交わるコミュニティーバザ  
ールカフェの20年を振り返る  
／他11篇 ISBN978-4-86376-083-7

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

# 「主イエスの御名を「称える」 信仰への招き

〈評者〉北原和夫



山口周三  
恵心流キリスト教の牧師  
小西芳之助の生涯

小西芳之助の生涯  
恵心流キリスト教の牧師  
山口周三著

キリスト教徒の実践として、ひたすら主の御名を呼び求めよ、という「称名」を説いた牧師小西芳之助の生涯を紹介する本である。著者は小西が牧会をしていた高円寺東教会の会員であった。小西は晩年健康を損なって説教が困難となり、高円寺東教会は解散し、小西の説教の録音テープを聞く形の集会となり、小西の逝去後も、その形は継続されて現在に至っているという。小西の説教の録音テープのかなりの部分は文字起こしされて出版されている。

本書の構成は四部からなり、第一部「生涯」において、幼少期生活した奈良県の故郷が、源信の仏教の雰囲気を持っていったこと、一高時代、モーク先生のバイブルラスでの聖書との出会い、帰省中に中学教師の島村清吉との出会いによって、浄土真宗と人格的な出会いがあったこと、大学生となって同志会学生寮に入寮してからの出会い

などが詳しく説明されている。卒業後牧師を目指そうとしたが、父から反対されて、サラリーマンとなる。そのことを述懐して友人に「もし、自分がいきなり牧師になったら、学者的牧師になって、信者と心の通う牧師になれなかったかも知れない。……」と述べている。そして自分の生涯を三つの時期に分け、第一期は学生時代まで、第二期は会社員時代、第三期は伝道者としての奉仕。これを使徒言行録七章でパウロが指摘しているモーセの生涯の三つの時期に譬えている。

第二部「信仰」は、すでに一九九四年に刊行された小西芳之助の説教の記録『ローマ人への手紙講解説教——恵心流キリスト教』の中で著者が選択したものを掲載している。第三部「同志会日誌語録」より「小西芳之助がキリスト教学生寮の「金曜日」（毎週金曜会の夕方に開催さ

れる晩禱の会）にチャプレンとして出席したときの説教から著者が選択したものである。この「金曜日」は同志会にとって根幹となる行事で、寮生、先輩たち、そしてチャプレンが参加する。毎週金曜日夕刻に、はじめに食堂で会食があり、その後、礼拝堂に集まり、讃美歌を歌い、禱祷し、参加者が感話を述べ、最後にチャプレンが短い説教をする。この「同志会日誌」は寮生による速記録なので、話したそのままの記録ではないが、会合の雰囲気は伝わってくる。

第二部と第三部に収録されている小西の説教は、膨大な記録の中から小西の説教として典型的なものである。読者は、ぜひ小西の雰囲気を感じてみたい。戦後のキリスト教ブームの中にあつて、小西の関心は、

もつぱら、キリスト教の本質、すなわちイエスの贖罪と復活の福音を、いかにして日本の伝統的な感性と共感できるものとして伝えるかに関心が集中していたのである。そのことが本書の最も大切なメッセージである。第四部の「終章 小西芳之助の今日的意義」において、内村鑑三の「信仰は単純なるを要す」、井上洋治神父の「南無アッバ」を紹介して、称名の意義を総括しているのである。

(きたはら・かずお) 国際基督教大学名誉教授、日本基督教団三軒茶屋教会副牧師)

ケズィック・コンベンション説教集2019 「大井満責任編集」

## 神の愛に満たされて

四六判美装・一七六頁 本体二〇〇〇円



すばらしい説教集の決定版！  
深谷春男師・わたしは今年の説教集がとても充実した圧巻であると感動をもって読みました。導入部分、その中心部分の主題の提示、釈義の深さ、神学内容の鋭い洞察、適切な実例や体験や譬え、ユーモアなどを意識しつつ、楽しみ、充実の時間を満喫しました！

## 金子晴勇 わたしたちの信仰

その育成をめざして 新書判・二四〇頁・二〇〇〇円

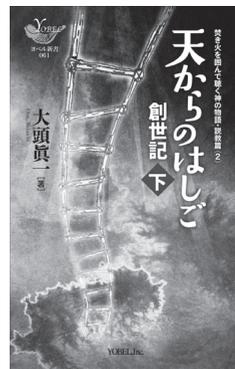


好評発売中！  
片柳榮一氏評「本書は、…さすが「ヨーロッパ思想史」で長年鍛え抜かれた著者の思索の牙を覚えさせられる。この短い講話を集めた書にも、著者の思想の根底を支える確信が滲み出ている。現代人がもはや理解しがたくなっている、人間の人格性、宗教性ということの意味を受け取りなおそうとしている。」

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 星 (税別)

# 神さまの目線に貫かれた説教

〔評者〕 中村佐知



焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇2  
天からのほしご

創世記・下

大頭眞一著

大頭眞一牧師といえば、「焚き火の牧師」としてご存知の方も少なくないかもしれません。二〇一七年に出版された大頭牧師の著書『焚き火を囲んで聴く神の物語・対話篇』（ヨベル）は、そのユニークなスタイルと神学的に深く切り込んだ内容で、大きな反響を呼びました。大頭先輩（焚き火の周りではそう呼びます）は、神学とは難解で重々しく無味乾燥なものというイメージを覆し、むしろ神の愛と喜びと涙に満ちたものであること、そしてそれは、言わば神の物語の目次のようなものであり、その目次が示すそれぞれの章の中身は、神と私たちが共に紡いでいくのだと教えてくれました（私の勝手な解釈かもしれませんが）。本書はその不思議な本の「説教篇」第二弾で、二〇一八年六月二四日から九月九日までに明野キリスト教会で語られた、創世記後半からの講解説教が収録されています。

私たちの人生は、出来事が箇条書きで並ぶ年表のようなものではありません。紆余曲折があり、喜怒哀楽のある、波乱万丈な物語です。本書に収録されている説教は、そんな私たち一人ひとりの物語に、神の物語がどう接近し、どう結びつくのかを語ります。説教ですから、そこには罪や悔い改めの話も出てきます。試練や誘惑との戦いも出てきます。しかし大頭先輩の説教を通して語られているのは、神や聖書についての知識や、道徳や、私たちが持つべき行動規範ではなく、私たちと関係を持つことを願って止まない生身の神の姿です。そしてそんな神に愛されている、私たち自身の姿です。

本書のタイトル「天からのほしご」は、創世記二八章のヤコブの物語から取られています。このほしごは、芥川龍

之介の小説『蜘蛛の糸』で、地獄で苦しむカンダガを助けるために釈迦が垂らした細い蜘蛛の糸のようなものではないでしょうか。これをつたって這い上れたら、罪にまみれた地上を脱出して天に入れるようにしてやろう、というものはないので。大頭先輩は言います。

「普通、はしごは地から天に向かって立てます。だけど、どんなに高いはしごでも、地から天に届くようなことはないわけです。人が自分の力によって神さまに届こうとするならば、決して届くことができない。むしろ、自分の罪の深さにますますしやがみ込んでしまう。…（中略）…でもこの夜ヤコブが夢で見たはしごは天から地へ向かって立っていた。…（中略）…神さまに届くことができないヤコブに神さまの方から来て下さった。…（中略）……（中略）……（中略）……（中略）…」

にいるヤコブの傍らに、横に、神さまが来てくださった、立って下さった。ヤコブを赦し、祝福するために来て下さった。」（一五一―二頁）大頭先輩の説教には、この神様の目線——私たちの傍らに立ち、私たちが愛し、赦し、抱き、祝福しようとしておられる神の目線——が貫かれています。それは、講壇の上から朗々と語られるというよりも、隣に座って友と分かち合うようにして、時には自己開示をし、時には優しく私たちの心を探りつつ、語られています。そしてそれを読むとき、読者は自分自身の物語を神の物語の中に見出して、驚くことでしよう。自分の物語の中に確かに神がおられ、慈しみに満ちた御手を差し出しておられることに気づき、慰めと励ましを得ることです。

（なかむら・さちキリスト教書翻訳者、霊的同伴者）  
〔新書判〕二二四頁・本体一〇〇円＋税・ヨベル



新刊



## 旧約聖書の物語解釈

上智大学

キリスト教文化研究所

川中 仁 編

●四六判並製 167頁

本体 1,500円

本書は、2019年の聖書週間に上智大学にて行われた聖書講座をもとに、書き下ろした論文を収録した。

アブラハム物語を読む  
水野隆一

「ダビデ王位継承物語」の深層  
一女性たちの悲劇と知恵をめぐる一  
中村信博

旧約聖書における  
物語文学の構造と主題  
月本昭男

ISBN978-4-86376-082-0

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

## 信仰生活の基本を 振り返るよき手引き書

〈評者〉権ヨセフ



「わたし」があなたを使いたい

ヨナ書講解

私より私をもっと使いたがっておられる  
神の熱い御心

キム・ナムグク 著

チェ・キユベ 訳

ヨナ書は旧約聖書の中でよく説教されるほど人気がある。短いからだけではなく内容的に映画みたいに面白いからである。しかし、ヨナ書には大いなる神の愛が記されている。

ヨナという人物はBC七九三〜七五三年、北イスラエルの預言者として活動したのである。ヨナは神から、アッシリアの都市ニネベに行つて、「もう四十日すると、ニネベは滅ぼされる」というメッセージを叫ぶように命じられた。しかし、ヨナはニネベではなくてタルシシュへ逃れるためタルシシュ行き船に乗り、船底でぐっすり寝込んでいた。神は大風を海に吹きつけられ激しい暴風が起こり、ヨナが乗っていた船は難破しそうになった。水夫たちは恐れ、彼らの神に向かって叫び、船を軽くしようと積荷を海に投げ捨てた。船長はヨナに行つて言った。

今回はことばのとおり、ヨナはニネベに行つて、叫んだ。ところが、ニネベは行きめぐるのに三日かかるが、ヨナは一日目の道のりを歩き回つて叫んだ。しかし、ヨナの叫びを聞いたニネベの人々は神を信じ、断食を呼びかけ、荒布を着た。神は、悪の道から立ち返ろうとするニネベの人々をご覧になつて、彼らに下すと言われたわざわいを下さなかつた。

このような光景を見ていたヨナは喜ぶことなく、非常に不愉快になり、怒つた。そして、ニネベに何が起こるかを見極めるため、自分で仮小屋を作つた。ところが、神は一本のとうごまと一匹の虫を備えて神の御心が何であるかをヨナに教えられた。

このようなヨナ書からイスラエルだけではなく全世界の人々を愛する神の御心が分かる。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになつたほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つたためである。」ヨハネ

「起きて、あなたの神にお願いしなさい。あるいは、神が私たちに心を留めてくださつて、私たちは滅びないですむかもしれない。」

船客の皆は、このわざわいの原因を知るためにくじを引くことにして、引いてみたらヨナに当たつた。ヨナは、自分分はヘブル人で、海と陸を造られた天の神を恐れて、主の御顔を避けて逃れていることを告げた。それで、ヨナは自分分を捕らえて海に投げ込むようにした。ヨナを投げ込んだら海は激しい怒りをやめて静かになつた。

ヨナは、神が備えた大きな魚にのみこまれて三日三晩、魚の腹の中にいた。神は、魚に命じ、ヨナを陸地に吐き出させて、再び次のことばを与えられた。

「あの大きな町ニネベに行き、わたしがあなたに告げることはを伝えよ。」

による福音書3章16節。

神はすべての人々を救うためにイエス・キリストをこの世に遣わされた。この神の愛と福音を知らせるためには必ず伝える人が必要である。

著者は牧師と宣教団体のリーダーとして、神の宣教に使われる信者が起こされること願ひながらこの説教をしたと思う。「わたし」があなたを使いたい」という本のタイトルからその気持ち伝わってくる。

この本の特徴は

一・内容が分かりやすく読みやすい

二・信仰生活の基本を振り返つてみる機会を与える

三・理論的な教えより実際の生活に焦点を合わせている  
読者の皆さんはこの本を読みながらご自分の中にいるヨナを見つけている神の熱い御心を知ることが出来ると思う。

(クオン・ヨセフ 恵泉キリスト教会小平チャペル牧師／宣教師)

(四六判・二四八頁・一五〇〇円＋税・PENBEL発行・ヨベル発売)

# 神も仏もないと言っ世界に 神父が語る希望の言葉

〈評者〉 香山リカ



## 希望する力

コロナ時代を生きるあなたへ

晴佐久昌英・片柳弘史著



「神も仏もないんですね」という言葉を、三〇年以上の精神科臨床の現場で私は何度、耳にしたことか。詐欺にあつて全財産を失った、わが子を病氣や事故で亡くした、通り魔にあい心身に傷を負った……。こんな人たちが絞り出すように口にする、「神も仏もない」という言葉に、どう答えてよいかもわからず、いつも黙つてうなずくだけなのであつた。

コロナ禍は、まさに全世界に「神も仏もない」という状況をもたらしたのではないだろうか。そのフリーズに、神父はなんと答えるのだろうか。もしかして「そう思うのはあなたの信仰が足りないからです」「祈ればいいのです」などと言うのではないか。密かにそんなことも考ながら本書を開いた。

ふたりは、私が意地悪く考えたような安易な答えは語つ

況の人たちと食卓を囲む「福音家族」というユニークな活動を実践してきたが、さらに教会の近くで暮らすひとりの路上生活者を「最寄りさん」と呼び、毎日の食事の一部を届けることにしたのだという。「世界的な危機だから」と意気込みすぎず、「まず『最寄りさん』にかかわろう」とすることで「イエスの原点に立ち返る」という体験ができる。晴佐久神父の行動を伴った言葉は、片柳神父の言う「理不尽な苦しみ」に「なぜ」と問い続ける人たちへの、ひとつの回答のようにも思えた。

理不尽さに苦しみ、自分の無力さを認める謙虚さを忘れない。しかし、その中でも自分にはまだできることがある、と信じてたとえば「最寄りさん」にちよつとした手を差しのべる。その根底にあるのは、教皇フランシスコがコ

ていなかつた。片柳神父はコロナ禍は「理不尽な苦しみ」だと認める。そして、生きているあいだは、「なぜこんな目にあわなければならぬのか」の答えはわからないのと言うのだ。「すべての悲しみは、神様の手の中で喜びに変わる」日はいつか来るが、それまでは「なぜ」と問いながら苦しみ、その中で祈るしかない。この率直な言葉に、これまで診察室で出会ってきたさまざまな人たちの顔が思い起こされ、重なつた。

また晴佐久神父は、「コロナウイルスは、あらゆる壁を無化した」ことを知るべきだ、と語る。国も民族も貧富の差もなく、誰もが同じ試練を体験することになった。そう思えば、遠くの人の気持ちもわかるし、同時にすぐ近くにおいて自分のヘルプを求めている人の存在にも気づけるはず、と言う。晴佐久神父はこれまでもいろいろな立場、状況で述べた「恐れるな」というイエスの言葉への信頼であろう。「今はつらいでしょう。でもこれからは良いことが始まる。恐れないで。」その言葉をかけてあげることができれば、目の前で打ちひしがれている人の心の灯になるのではないか。

クリスチャンはもちろん、私のような万年求道者、そして仏教など他の信仰を持つ人や信仰をとくに持たない人にこそ、ぜひ読んでもらいたい本だ。「カトリックの神父？ どうせ『神様を信じればすべて解決します』とか言ううんだらう」という先入観がガラガラと崩れ、生きるヒントがきつと与えられるはずだ。私もなにげなく診察室の片隅に置いておいて、興味を示した患者さんに貸そうかな、と思つている。(かやま・りか 精神科医、立教大学教授)

(四六判・一二六頁・本体二〇〇円＋税・キリスト新聞社)

カルヴァンと共に  
祈る日々

ドナルド・K. マッキム  
原田浩司\*訳

DONALD K. MCKIM  
カルヴァンと共に祈る日々  
ドナルド・K. マッキム  
原田浩司\*

EVERYDAY  
PRAYER  
with  
JOHN CALVIN

祈りをめぐり、  
カルヴァンとマッキムが  
タッグを組んだ！

カルヴァンの珠玉の言葉  
とマッキムの聖書に即した  
黙想によってわたしたち  
を祈りの人へと導く。

四六判  
定価【本体 2,000 + 税】円  
ISBN978-4-86325-126-7

株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

語の出し『キヨンシー』を覚えて  
いますか?」にぶっ飛ば!

〈評者〉古賀 博



新版・教会暦による説教集  
クリスマスへの旅路  
アドヴェントからエペファニーへ  
越川弘英編

新版『教会暦による説教集』シリーズの第一巻が本書。旧シリーズは二〇〇六年に刊行されているので、それから一四年を経ての新しい船出である。

今回も引き続き編者を務める越川弘英牧師の「あとがき」にあるように、今シリーズでの新たな試みは以下の三点。

第一に、日本基督教団の教会暦と四年サイクルの聖書日課を参考にして、各執筆者に聖書箇所が示されて執筆されたものであること(旧シリーズでは、聖書箇所を選定はあたる程度は執筆者に任されていた)。第二に、一九七〇〜八〇年代生まれを中心に執筆者が選任されていること。第三に、男女バランスが意識されていること。これら三つがさまざまな形で本書を特徴づけていることを強く感じる。また、日本基督教団を中心に他教派の方々も執筆者に名を

読み進めると、聖書のメッセージがこのキヨンシーを巡る話でうまく落とし込まれていて、妙に納得もし、感心もした。

こうした私の反応こそが、旧シリーズの執筆者年代であった一九五〇〜六〇年代(私のその一人であったのだが)との二〇年差を如実に表しているように思う。本書を通じて刺激的な何編かに出会えて、ついつい安牌路線に傾いている自分の説教スタイルを見つめ直す良い機会ともなった。

さらに触れておかねばならないのは、本書に取められた説教には、時代の課題や状況、特に新型コロナウイルス感染症を巡る体験などが確実に反映されていることだ。前出の編者はこうした面を捉えて前シリーズに比して「重苦しい雰囲気」と評し、その原因を「この世界の闇の深さ、この時代が抱える問題の深刻さと複雑さ、そしてはつきりと

連ねており、編者たちが幅広く日本の教会の現在を捉えようとしていることを窺わせる人選となっている。

教会暦を通じて示された聖書箇所から、降誕前節、待降節、降誕祭、降誕節のメッセージを語り出すために、テキストと必死に格闘したであろう軌跡・痕跡を感じさせる何編もあり、教会暦に沿って説教を取り組もうとしている若い人々にはきっと参考になるだろう。

何と言っても、若い牧者たちの瑞々しい感性が本書の彩りとして際立っていることを特筆したい。説教の展開や表現方法、題材の選定などに若者の感覚が活かされている。

ある牧者は、降誕祭の説教をこう語り出す。「皆さんは『キヨンシー』を覚えていますか?」「なにっ! キヨンシー! そこからクリスマスの説教を語り始めるのか!」と読んでいて、思わず叫んでしまった。それでも最後まで

しない将来への不安とジレンマ」に求めているが、今日的な課題を色濃く写し出している各説教に実に多くの示唆も与えられる。

本書に続くであろうイースター、ペンテコステの二冊にも、今シリーズの特徴は活かされていくであろうから期待は膨らむ。

同時に、私と同年代くらいの中堅からベテランの域に入った牧者たちの説教も、第一と第三の特徴に沿って集めてみると、また違った趣となり興味深いのではないかと考えた。発行元のキリスト新聞社さん、ロートル版(笑)もよろしく!

(こが・ひろし) 日本基督教団早稲田教会牧師  
(四六判・二三三頁・本体一八〇〇円+税・キリスト新聞社)

新刊

# 病の神学

ジョン・ロッド・ラルシュ 著  
二階宗人 訳



病気は人間であることと条件と関係づけられている——教父の神学に依拠しつつ、病の意味を問う。病気とその痛みを癒すこと、さらに人間の霊的な全体的救いをキリスト教の視点から展望する。

A5上製・3200円(税別)

教友社

275-0017 習志野市藤崎 6-15-14  
TEL047-403-4818 FAX047-403-4819  
http://www.kyoyusha.com

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
スコット・マクナイト著 中村佐知訳	新装改訂版 福音の再発見 —なぜ救われた、人たちが 教会を去ってしまうのか	四六	280	1,800	キリスト新聞社	9/24
越川 弘 英	キリスト教史の学び(下)	A 5	346	2,200	〃	9/24
小川修パウロ書簡 講義録刊行会編	小川修パウロ書簡講義録7 —ガラテヤ書講義 I	A 5	299	3,000	リ ト ン	9/21
川上直哉訳著	P. T. フォーサイス 聖なる父 —コロナの時代の死と葬儀	新書	216	1,100	ヨ ベ ル	9/11
ラリー・クラブ著 川島祥子訳	ひとを理解する —なぜ、ひとは、関 係を熱望するのか	A 5 変	320	1,800	〃	9/30
岩本 遠 億	366日 元気が 出る聖書のことば —あなたはひとりではない	A 5 変	352	1,800	〃	9/30
住谷 眞	神曲 つれづれ	A 5	154	2,500	一麦出版社	9/5

既刊案内 (2020年8月~9月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
加藤 常 昭	加藤常昭説教全集34 エフェソの信徒への手紙	四六	276	2,700	教 文 館	8/30
山口 周 三	小西芳之助の生涯 —恵心流キリスト教の牧師	A 5	232	2,000	〃	8/30
鈴木 範久 監修 日本キリスト教歴史 大事典編集委員会編	日本キリスト教 歴史人名事典	B 5 函入	984	45,000 特別価格 42,000 2020年 11月30 日まで	〃	8/30
朴 憲 郁	現代キリスト教教育学研究 —神学と教育の間で	A 5	680	7,500	日本キリスト 教団出版局	8/24
黒鳥 偉 作	病と信仰 —病を担うイエスと生きる	四六	144	1,300	〃	8/25
宮 平 望	ディズニー変形譚研究 —世俗化された福音への信仰	四六	240	2,000	新教出版社	8/31
津曲 真一、 細田あや子編	宗教史学論叢24 媒介物の宗教史【下巻】	A 5	430	5,000	リ ト ン	8/15
大頭 眞 一	焚火を囲んで聴く神 の物語・説教篇2 天からのほしご 創世記・下	新書	224	1,100	ヨ ベ ル	8/25
キム・ナムグク 著 チェ・キュベ 訳	「わたし」があなたを 使いたい ヨナ書講解 —私より私をもっと使いた がっておられる神の熱い御心	四六	248	1,500	〃	8/31
M.S.M.スコット著 加納和寛訳	苦しみと悪を神学する —神学入門	四六	364	3,600	教 文 館	9/20
M. デ. リッター 著 島田宗洋、 W. R. アーデ 訳	わたしたちはどんな 医療が欲しいのか? —人間中心医療を取り戻 すための提言とその理由	四六	346	2,600	〃	9/30
加藤 一 二 三	だから私は、神を信じる	四六	116	1,200	日本キリスト 教団出版局	9/1
ないとうかずえ	こちら陽だまり荘 —介護士 美奈子の日誌	A 5	120	1,400	〃	9/24
押田 成 人	押田成人著作集3 いのちの流れのひびきあい —地下流の霊性	A 5	260	2,700	〃	9/31
エリザベス・シフトン著 亀田信子訳、 安酸敏眞解説	平 静 の 祈 り —ラインホルド・ ニーバーとその時代	A 5	360	4,500	新教出版社	9/30
晴佐久昌英、 片柳弘史 著	希 望 す る 力 —コロナ時代を 生きるあなたへ	四六	126	1,200	キリスト新聞社	9/15

北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_syoten_0530@afoc.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区3-1-17	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘キリストセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimb.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.jp/~yohatara-obs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.coocan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東1ル	075-211-6675	075-211-2834	http://webkyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkihan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一町11-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環読字館777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

『本のひろば』のバックナンバーをWeb上で閲覧できます。「キリスト教文書センター」のホームページから「書評誌『本のひろば』」にアクセスしてください。

<http://www.bunshyo.or.jp>

## 2020年6月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：言は神であった 野村 信		
特集：日本における宣教・伝道を学ぶにはこの三冊！ 石田 学		
エッセイ：『藤井 武記念講演集』Ⅰ・Ⅱを上梓して 佐藤全弘		
苦難と救済	野村 信他編、教文館	住谷 眞
奪われる子どもたち	富坂キリスト教センター編、教文館	大嶋 果織
続・社会学者、聖書を読む	高橋由典著、教文館	川中子 義勝
教会の一致と聖さ	袴田康裕著、いのちのことば社	藤本 満
押田成人著作選集1 深みとのめぐりあい	宮本久雄他編、日本キリスト教団出版局	小暮 康久
藤井武記念講演集Ⅰ わが心の愛するもの、Ⅱ 聖名のゆえに軽負う私	佐藤全弘著、ヨベル	内坂 晃
説教黙想アレテア 伝道する説教をしよう	日本キリスト教団出版局編	齋藤 真行
ヨシヤの改革	D.T.ステュアート他著、博英社	焼山 満里子
教会のマネジメント	島田 恒他著、キリスト新聞社	宇田川 元一
神さまが見守る子どもの成長	石丸昌彦著、日本キリスト教団出版局	小島 誠志
聖書と現代	関西学院大学神学部編、キリスト新聞社	山口 希生

## 2020年7月号

巻頭エッセイ：本と旅して 松村さおり		
特集：『「ビジュアル表現にみるキリスト教」に触れるならこの三冊！ 三輪義也		
あなたはわたしの愛する子	片柳弘史著、教文館	久米小百合
平和憲法とともに	稲 正樹他編、新教出版社	笹川 紀勝
誰にも言わないと言ったけれど	J.H.コーン著、新教出版社	山下 壮起
イエスを見つめながら	カンパーランド長老キリスト教会高座教会編、新教出版社	戒能 信生
現代神学の冒険	芦名定道著、新教出版社	小原 克博
キリスト教史の学び(上)	越川弘英著、キリスト新聞社	落合 建仁
「新」キリスト教入門(2)	新免 貢著、燦葉出版社	岩村 義雄
創造か進化か	デニス・アレクサンダー著、ヨベル	関野 祐二
母子の情愛	西谷幸介著、ヨベル	間瀬 啓允
知られなかった信仰者たち	川口葉子他著、いのちのことば社	辻 直人
今日のパン、明日の糧	H.ナウエン著、日本キリスト教団出版局	吉川 直美

## 2020年8月号

巻頭エッセイ：キリスト教とどうかわるか 岡田 聡		
特集：「キリスト教教育」を学び直すにはこの三冊！ 森田美千代		
見出された命	小島誠志著、教文館	渡辺 正男
古代イスラエル宗教史	M.ティリー他著、教文館	月本 昭男
ヤバイぜ！ 聖書	明治学院テキスト作成委員会編、新教出版社	西原 廉太
逆風に抗して	ドロテー・ゼレ著、新教出版社	山本 泰生
今、礼拝を考える [新装増補版]	越川弘英著、キリスト新聞社	北村 裕樹
宇宙の筋目に沿って	S.ハワーワス著、ヨベル	藤原 淳賀
JKに語る！ 新約聖書の女性たち	久野 牧著、一麦出版社	矢澤 励太

長田栄一 (日本イエス・キリスト教団事務局長 神戸聖霊教会牧師兼任)

# 旧約聖書の世界

そのゆたかなメッセージに聴く

旧約聖書の世界  
そのゆたかなメッセージに聴く

ISBN978-4-909871-30-5

「取り返しがつかない」人生はない。私たちが少しも変わらぬ、古代ユダヤの世界に生きた人々の生涯に光を当てながら読み解く、格好の手引書。

四六判・三七六頁・二〇〇〇円

金子晴勇 [著] 〈ヨーロッパ思想史〉

# キリスト教思想史の諸時代

I ヨーロッパ精神の源流

ISBN978-4-909871-27-5

キリスト教思想史の諸時代  
—ヨーロッパ精神の源流—  
金子晴勇

「人間の自己理解の軌跡」の宝庫であるヨーロッパ思想史に尋ねる！

- II アウグスティヌスの思想世界 [次回配本]
- III ヨーロッパ中世の思想家たち
- IV エラスムスと教養世界
- V ルターの思索
- VI 宗教改革と近代思想
- VII 現代思想との対決

各巻新書判・平均二五六頁・一二〇〇円

ラリー・クラブ 川島祥子訳

# ひとを理解する

なぜ、ひとは、関係を熱望するのか

ひとを理解する  
なぜ、ひとは、関係を熱望するのか

ISBN978-4-909871-21-3

神の形を帯びる、「ひと」の理解に立つて心の深層にある問題の構図に迫る。

A5判変型・三三〇頁・一八〇〇円

大頭眞一 (日本イエス・キリスト教団明野キリ) 焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇全8巻

# 天からのはしご 創世記・下

「第一回配本」

ISBN978-4-909871-20-6

天からのはしご 創世記下  
大頭眞一

八方ふさがりなどん底の中に降りてきた天からの梯子の表象は何を語るのか。

新書判・二二四頁・一一〇〇円

岩本遠億 (神戸外語大学大学院言語科学研究科教授/キリストの平和教会牧師)

# 366日元気が出る聖書のことば

「あなたはひとりではない」聖書を通して神が語りかける励ましと励め、そして戒め。

ISBN978-4-909871-19-0

366日元気が出る聖書のことば  
岩本遠億

A5判変型・三五二頁・一八〇〇円

西岡義行責任編集 東京ミッション研究所創立30周年記念論文集

# 平和をつくり出す 神の宣教

現場から問われる神学

ISBN978-4-909871-28-2

平和をつくり出す 神の宣教  
Mission of God the Peacemaker  
現場から問われる神学

神学の現在とは？ 宣教の未来は？  
故ロバート・リー博士によって設立され、活動してきた東京ミッション研究所が設立30周年を記念した、弟子たちによる気鋭の論考。

A5判・二六四頁・一八〇〇円

李信建 朴昌洙訳 ◆組織神学入門

# キリスト教神学とは何か

韓国神学界の碩学が四〇年以上研鑽してきた成果を信徒向け基礎神学書に結晶。

ISBN978-4-909871-16-9

キリスト教神学とは何か 組織神学入門  
李信建 朴昌洙

四六判・三九二頁・二〇〇〇円

ギム・ナムグク チェ・キユベ訳 ヨナ書講解

# 「わたし」があなたを使いたい

私より私をもっと使いたがっておられる神の熱い御心を御言葉で振り向かせる。

ISBN978-4-909871-25-1

「わたし」があなたを  
使いたい  
私より私をもっと使いたがって  
おられる神の熱い御心を  
御言葉で振り向かせる。

四六判・二四八頁・一五〇〇円

P・T・フォーサイス 川上直哉訳著

# 聖なる父 コロナ時代の死と葬儀

パンデミックに遭遇した現代日本の苦悩を透過して語りかけてくるものを聴く。

ISBN978-4-909871-26-8

「P.T.フォーサイス 聖なる父」  
「コロナ時代の死と葬儀」  
川上直哉訳著

新書判・二二六頁・一一〇〇円

山口希生 [著] 日本同盟基督教団中原キリスト教会牧師 セントアンドリュース大学「博士号」

# 「神の王国」を求めて

近代以降の研究史

ISBN978-4-909871-29-9

「神の王国」を求めて 近代以降の研究史  
山口希生

おおぬき たかし  
大貫 隆先生ご推薦！

日本新約学会会長  
東京大学名誉教授

ナザレのイエスが語りかけ、福音書記者が描写した「神の王国」とは一体何か。「目からウロコ」の聖書学！

四六判上製・二五六頁・一七〇〇円

# 福音と世界

2020年12月号

特集 パンテミックと生存格差

寄稿者 齊藤小百合、堅田香緒里、羽生有希

要友紀子、木村正人、金村詩恩

好評連載 I Say a Little Prayer 開かれる世界(栗田隆子)、「いまを生かぬみこ」(金退野)・バヤロン(の路上)や Conjecture of a Son of a Preacher Man (マニエール・ヤン)、教父学入門(土井健司)、くまさんのシネマめぐり(好井裕明)、第2 テモテ書(江学) ほか

A5判・本体600円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

## 編集室から

に、最近はその二駅分を歩くようにしている。

その時間に始めたのが、礼拝説教の聴取である。コロナ禍で多くの教会が、動画サイトや教会ホームページに礼拝や説教の動画をアップするようになり、この半年で、「あの教会の説教聞いてみたかった」なんて思っていた牧師の説教が、足を運ばずして、いつでも聞けるようになっていく。というわけで、最近はずきながら、1、2本ほど説教を聞いている。「説教はながら聞きするものではない！」

最近、引越しをした。職場まで乗り換えが一回。最寄り駅から二駅のところだ。私の故郷では二駅を歩くとなると二時間ほどはかかるものだが、首都圏だと三〇分も歩けば着けてしまう。冬太り対策

## 予告

本のひろば

2021年1月号

本・批評と紹介

(書評) 朴憲郁著『現代キリスト教教育学研究』、宮本久雄／石井智恵美編『押田成人著作選2 世界の神秘伝承との交わり、九月会議』、M・デ・リッター著『わたしたちはどんな医療が欲しいのか?』、マックス・ルケード著『ひと時の黙想』、M・S・M・スコット著『苦しみと悪を神学する』、黒鳥偉作著『病と信仰』他

というお叱りの声もあると思うが、私にとってははいわゆる、聖書日課、デボーションのような時間となっているのでお許しいただきたい。ちなみに最近推しのYouTube説教者だが……。

最近ではオーディオブックといった、本を読み上げてくれるサービスもあり、これまで活字化されていた文章の楽しみ方も多様化している。とはいえ本の中には、インタビューや講演を起こしたものもあるわけで、声から文字に、そしてまた音声に戻ったりということも起こるわけだ。わざわざ本を作る意味とは……なんて考えているとき、とある出版社の方が「この本、インタビューを起こしたのですが、著者の難しい言葉を、うちの編集者がきれいにまとめてたんですよ」と話してくれた。この世界は編集者(出版社)の力をまだ必要にしていると少し安堵した。(桑島)

# 宗教改革の知的な諸起源

A・E・マクグラス 著 矢内義顕／辻内宣博／平野和歌子 訳



義論は初期改革派では論争の中心ではなかった!  
 〈聖書のみ〉は中世からの遺産だった!?

後期中世の知的運動であったスコラ学と人文主義の神学的源泉と方法を精査し、地域的に複雑で多様な中世と宗教改革期の〈連続〉と〈断絶〉を明らかにした画期的な書! ルターを中心とした宗教改革「神話」を打破し、新たな宗教改革研究の可能性を切り拓く。

● A5判・上製・384頁・本体4,800円

## 絵本へのとびら

大嶋裕香 著



数ある絵本の中から、いったいどれを選べばよいのでしょうか? 絵本と言葉との出会いの喜びを、実体験を通して、優しい言葉で紡ぎ出したエッセイ集。

● 四六変型判・並製・128頁・本体1,000円

# 日本キリスト教歴史人名事典

鈴木範久 監修 日本キリスト教歴史大事典編集委員会 編

好評発売中!

最新の研究成果や新事実を反映した約5150人のキリスト教関係者を網羅。日本キリスト教史研究の里程碑ともいえるべき必須の基礎文獻。

呈・内容見本

● B5判・函入・984頁本体45,000円 ◆特別定価 本体42,000円 (2020年11月30日まで)



## やさしさの贈り物

日々に取り添う言葉366

1年分の幸せを、1冊の本にしました!

片柳弘史 著



やさしさの贈り物  
 片柳弘史 著 366  
 1年分の幸せを1冊の本にしました

ツイッターのフォローワー数が10万人を超す片柳弘史神父がインターネットで配信した言葉を厳選。揺れ動くころろに寄り添うやさしい言葉。プレゼントにも最適。

● A6判・390頁・本体900円

好評既刊

### 片柳弘史神父の本



仕事、家庭、人間関係に悩み、まいにち頑張るあなたへの言葉の贈り物。



聖句と片柳神父のショートメッセージを毎日味わえる一冊。

各 A6判(文庫判) 390頁・本体900円



# 教義学要綱 (ハンデイレ)

カール・バルト著 / 天野有、宮田光雄訳

名著の新訳!

敗戦直後のドイツで、使徒信条を用いて行われた教義学入門講義。神学することの喜びへ促す白熱の名講義。

◆小B6判・本体2000円

# クリスマス 激動の半世紀間の

カール・バルト著 / 宇野元訳

28年から62年までのメッセージを精選。

歴史の中の歴史を越えた福音の真理。

# 10の降誕使信

◆小B6判・本体1400円

# 創世記Ⅱ カルヴァン旧約聖書註解



ジャン・カルヴァン著 / 堀江知己訳 (ほりえ氏は日本基督教団前橋中部教会牧師)

本巻は24章以下(イサクとヨセフ)を扱う。宗教改革者の釈義の真髄を伝える創世記註解、36年ぶりの邦訳完結。なお、Ⅰの初版を持つ読者や愛書家のために、函入上製本を限定100部制作します。専門書店にご注文下さい。

◆A5判・並製・本体45000円 / 上製函入・本体60000円

創世記Ⅰ (オンデマンド版) 渡辺信夫訳 ◆A5判・並製・本体46000円

# 日韓キリスト教関係史資料Ⅲ

1945—2010

富坂キリスト教センター編

日韓の貴重な資料400点以上を収録。日本敗戦から日韓基本条約締結までの交流を第Ⅰ部、韓国民民主化闘争と日韓連帯の動きを第Ⅱ部、戦後補償問題を含む日韓の交わりと統一への模索を第Ⅲ部とする。とりわけ民主化運動資料は他の追隨を許さぬ充実。

◆A5判・本体15000円

11月25日



11月25日

# 平静の祈り

E. シフトン著 / 梶田信子訳 / 安酸敏眞解説 ◆A5判・本体45000円

## ラインホルド・ニーバーとその時代

「変えられないことを平静に受け入れる恵みを、変えるべきことを変える勇気を、そして一方から他方を見分ける知恵をお与えください。」



一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可  
二〇一〇年二月一日発行(毎月一回一日発行)  
本のひろば 第七五六号 二〇一〇年二月号

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話03-3361-6211 振替0117-01511677  
発行人 金子和人 編集人 土肥研一 印刷所 柳平河工業社  
発光所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3361-5617

定価七八円(税抜七一円) 71円  
一年分1300円(送料共)